

WEST PRESS 8



DISCUSSION WEST meets 前田 茂樹

「オフィスというよりも、公共空間をつくる感覚で設計しました」

建築家・梅林克が興味を持つ建築家やデザイナーを訪ね、ディテールに対する考え方や設計手法を聞くシリーズ。第8回となる今回は、建築家・前田茂樹が手がけた「オフィス受付・応接スペース」を訪ねた。ここは前田が2年前まで在籍したDOMINIQUE PERRAULT ARCHITECTUREで設計を担当した「大阪富国生命ビル」に隣接する、新しいオフィスピルの30階にある。最大の特徴は空間を区切る、ポリカーボネートを使用した半透過性のパネル。シンプルな構成ながら、環境と感応しあう幻想的な空間が生まれている。光が乱反射するパネルをどのようにスタディし、どのように実現させたのだろう。ドミニク・ペローとも共通する、シンプルながら奥行きを感じさせるファサード表現の手法とは？ 伸びやかな空間の背景には、インテリアを建築や都市のように捉える、スケールの大きな発想法が見えてきた。

梅林 <ポリカーボネートパネルを使ったパーティション>と聞いたときはあまりピンと来なかったのですが、実際に体験してみるととても効果的だとわかりますね。こう言っているのかわかりませんが、ドミニク・ペローからの影響もあるのではないのでしょうか。硬質な素材でできたファサードをやわらかい表皮へと変えてしまうというような、ペローの手法の流れを汲んでいるようにも見えました。

前田 そうですね。ファサード自体はシンプルに、でもそこに何らかの感情を呼び起こすような奥行きを感じさせたいと思っています。ペロー事務所の担当者として「大阪富国生命ビル」の設計に携わっていたときも、できるだけコアや機能を敷地の奥にまとめて都市空間を広げようとしていました。同じように、ここでも応接室を左右に寄せ、受付から窓の外まで視線が抜ける大きなホールを設けたくです。ビルの30階から34階の中にひとつのグループ会社のさまざまな部門が集結しています。この状況を会社のメリットに変えられないか、という課題をいただいたので、各部署が繋がっていけるようなスペースも必要ではないかと提案しました。

梅林 <会社のリビング>のようなパブリックスペースなんですね。しかも、素材は凝っていても機能的には素直な回答で、若さゆえの気張った感じがしないと言いますか、よい意味で肩の力が抜けた提案という印象です。ホテルのロビーのような雰囲気も感じられますね。

前田 この空間は特定の部署に属する空間ではない、と考えていたのでオフィスというよりも公共空間をつくるような感覚で設計しました。スペースは合計約1,500㎡。ペロー事務所で働いていたときも同じくらいの規模の空間を考える機会が多く、常にその規模で都市とどう接続できるか、というテーマを持っていたので考え方は連続しているのかもしれませんが。

梅林 ビルの高層階のインテリアでありながら、都市との関係を考えているんですね。建築家らしい発想によるインテリアの好例だと思います。

前田 ありがとうございます。まさにこの会議室それぞれを建築と捉え、ロビーや通路を街路と考えてつくっている感じです。

梅林 近年はオフィス空間でもこうした中間領域をつくる傾向にあります。社員同士の横のつながりを重視したり、個人の机をなくしたり、社員食堂がすごく豊かになったりと。普通は中間階にそうした場をつくるのですが、ここはエントランスです。旧来のゴージャスな玄関的な空間で威圧する、というのではなく、カジュアルなリビング的な空間がいきなり現れる構成が効いています。暖かな空間表現には、色や素材の影響もありそうですね。

前田 会社のコーポレートカラーが青なので、クライアントには「なぜ青ではなく赤なのか」とよく聞かれました。青、緑などもCGで試してみたのですが、やはり赤色が持つ、迎え入れる暖かな感覚がいいと皆で納得し、こちらになりました。カーベットは遠くから見るとドット柄ですが、よく見ると細かいデザインが入っているんです。椅子には色を指定した4種類の生地をデンマークで張ってもらっています。

梅林 できあがった空間を見れば効果がすぐにわかりますが、できるまでのプレゼンテーションが難しい空間でもありますよね。

前田 モックアップを設置して、反射や透過の昼夜での違い、ディテールや照明、建具の検討などをしました。当初はポリカーボネートだけで構成しようとしていました。ポリカだけだともっと光が拡散するんです。でもポリカだけでは壁がしなくなってしまうことや、防災上の配慮などから、10mmの板2枚の間に10mmポリカーボネート2枚を挟んでいます。



Photo: Nacasa & Partners Inc.

前田 茂樹

Shigeki Maeda

1974年 大阪生まれ。

1998年 大阪大学工学部建築工学科卒業。

2000年 東京藝術大学美術研究科建築専攻中退。

2000-09年 DOMINIQUE PERRAULT

ARCHITECTURE、大阪富国生命ビルなどを担当。

2008年 前田茂樹建築設計事務所。

2010年 ジョングラフィック・デザインラボを共同設立。

大阪工業大学講師

作品

1999年 コソボ空爆避難住民のための仮設住宅

コンペ“Architecture for Humanity”入選

2001年 SDレビュー2001入選

2005年 中之島新線駅企画デザインコンペ

大江橋駅最優秀賞

2010年 ハングラデシュ・サイクロンシェルター

国際設計コンペ最優秀賞



メゾン・ハンダワン(フランス,2007)

Photo: YUJI ONO

感情を呼び起こす、奥行きあるファサード。

西 昔からある素材を上手く使って新しい空間に見せている、というのがいいですね。それがまたAgahoと絶妙に合っているのがうれしいです。

前田 どのドアノブを使うかというのは比較的早く決めていました。光が乱反射しているだけの壁が立っていて、そこにポツ、ポツと小さい要素だけが入るという状態をイメージしていたんです。描いたパースにAgahoに近いノブを試しに取り付けてみたところ、相性がよかったです。

素材感を統一して空間を豊かにする

梅林 シンプルなファサードに意識を惹きつける物体が浮いている構図になっているんですね。近づくとディテールが見えて、遠ざかると点のように消えてしまう。

前田 ドアノブ以外のパーツも、質感のバリエーションは減らしたかったので、Agahoの、同じアルミニウム素材のシリーズから選んでいます。特に同じ質感でさまざまなパーツを揃えているのはAgahoのいいところですね。

梅林 ところでこのファサード、製品化もできそうですね。框はすべてアルミ引き抜き材にして、パネルはポリカーボネートとガラスとを工場で作成してしまおうんです。施工も簡単になりますよ。

前田 そうですね。今回はパネルの層ごとに上下のシールで框に固定しましたが施工性に課題が残りました。ペロー事務所でも、ファサードは工場で作ることが多かったんです。大きな面を1つの素材で覆うことでディテールを減らせば繰り返しで面がつくれてコストも圧縮できるので。

梅林 先日ペローの事務所を視察したのですが、やはりやり方が洗練されていると感じました。たしか家具の会社も持っていますよね。

前田 建具を自分たちでデザインすることも多かったですね。建物全体を少ない要素でまとめたいて考えているので、事務所内のデザイン部門と協力しながら建築とあわせてつくります。

梅林 こちらの空間も要素は少なく、個々の要素自体もそれぞれ1つのやり方を貫いています。しかしファサードというオブジェクトとして見るとそこにはシンボル性や機能、環境との調和といったたくさんの意味が重ねられています。そこに豊かさを感じます。

WEST PRESS 8

WEST VOICE

素材の魅力を引き出すプロダクト

昨年秋にヨーロッパを訪れたときに、意外な感想をいただきました。レバーハンドルと言えば欧米の文化で、商品もたくさんありますよね。でも、Agahoのシリーズを目にして「こういう商品は今までなかった」と言われたんです。特に、アルミ素材なのが好評でしたね。私たちは意識していませんでしたが、和のテイストを感じるらしい。一口にヨーロッパといっても国ごとに雰囲気も違うし、求められる仕様も多様です。その中で「新鮮だ」と言われるのは嬉しいことですし、自分たちのものづくりを見つめ直す機会にもなり、エキサイティングな経験でした。パリの小さな金物屋さんで、壁中を埋め尽くすつまみやハンドルの中で、主婦や家族連れのお客さんがひっきりなしに訪れていたのも印象深いですね。ドアハンドルをお店やホームセンターで選び、気に入ったものに付け替えていく文化が根付いているんだと実感できました。

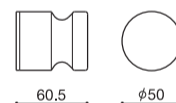
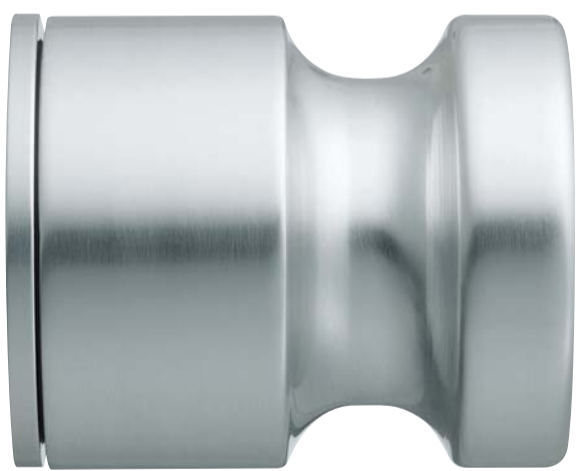
WEST代表取締役社長 西康雄・談

Next WEST meets 河井敏明



ガエまちや

Agaho basis Door Knob 192



価格 ¥8,800 (ノブのみ)~



WEST CORPORATION

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM
5-11-15 MINAMI-AOYAMA, MINATOKU, TOKYO, 107-0062 JAPAN.
TELEPHONE: 03-3499-9260 FACSIMILE: 03-3499-9263
OSAKA OFFICE / SHOW ROOM
4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.
TELEPHONE: 06-6221-5777 FACSIMILE: 06-6221-5888

株式会社ウエスト

東京オフィス/ショールーム
107-0062 東京都港区南青山5丁目11番15号
TEL: 03-3499-9260 FAX: 03-3499-9263
大阪オフィス/ショールーム
541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目3番22号
TEL: 06-6221-5777 FAX: 06-6221-5888

WEST PRESS 8

2012年3月7日発行

Art Direction:
藤脇慎吾
Text:
平塚桂 (はむ企画)
Photo:
繁田論 (Nacása & Partners Inc.)
Edit:
publica